

2022

12

December

No. 358

広報

みしま

福島県
大沼郡
三島町

三島町は、福島県の西部を流れる只見川沿いの小さな町です。優良な「会津桐」の産地として知られるほか、小正月の行事「サイノカミ」や、野山の材料で作る「編み組細工」などの伝統が受け継がれ、「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。

Mishima Town Public Relations



三島小まつり

11月3日に三島小学校体育館において、三島小まつりが開催されました。日頃、授業で学んでいることをユーモア溢れる劇やダンスで表現し、正々堂々と胸を張って発表しました。先生方と児童達は、協力し合い、三島小まつりを無事成功できたことを喜んでいる様子でした。

主な内容

令和4年度三島町文化祭	2～3
まちの話題	4～5
町民記者	6～9
冬期間に注意すべきこと	10
	など

ご受賞おめでとうございます

※敬称略

生涯学習表彰受賞者

- 第24回MOA美術館全会津児童作品展
審査委員長特別賞 三島小1年 川合 史歩
野口英世賞 三島小6年 布川 芽依
- 第58回全国児童才能開発コンテスト図画部門
財団奨励賞 三島小5年 二瓶 悠夏
- 第38回全国小・中学生作品コンクール
顧問審査員特別賞 三島小6年 浅見 凰花
- 県中学校生徒造形作品秀作審査会
(絵や彫刻・立体)
特選 三島中2年 鈴木 璃音
特選 三島中3年 小松 紗佳
特選 三島中3年 鈴木 美乃里
特選 会津学鳳高1年 酒井 大駕
特選 会津学鳳高1年 二瓶 里桜
- 県中学校生徒造形作品秀作審査会
(デザインや工芸・平面)
特選 三島中3年 吹上 媛香
特選 葵 高1年 板橋 卓
特選 会津学鳳高1年 齋藤 美那
- 2021年日学・黑板アート甲子園メイン大会
優秀賞 会津学鳳高3年 本名 円佳

社会を明るくする運動標語 コンクール表彰受賞者

【三島小学校の部】

特選 幸せは 笑顔でいれば よってくる
三島小5年 渡部 愛芽

入選 「大丈夫？」 やさしい声で 助け合い
三島小5年 熊谷 裕衣
「どうしたの？」 その一言が 救いの手
三島小6年 布川 芽依

【三島中学校の部】

特選 ありがとう 思いを伝える 合言葉
三島中3年 佐藤 りあん

入選 「また明日」 きっと誰かの 原動力(エネルギー)
三島中2年 鈴木 璃音
あいさつは 君に届ける 思いやり
三島中3年 片山 千愛

十七字で奏でよう絆ふれあい事業表彰受賞者

【三島小学校の部】

最優秀賞 三島小1年 鈴木 彩音 / 姉 鈴木 璃音
「わかってる ひとりでなんでも できるから」
「ほっとけない できないじゃん お節介」

優秀賞 三島小3年 佐久間 結人 / 祖父 二瓶 義徳
「じいちゃんと 土にまみれて いもをほる」
「馬鈴薯植う 豊作願い 孫達と」
三島小3年 渡部 愛梨 / 父 渡部 恵大
「おとうさん おなかでてるよ ひっこめて」
「食べ残し 全部食べたなら こうなるよ」

【三島中学校の部】

最優秀賞 三島中1年 秦 聖之助 / 父 秦 一夫
「朝昼晩 怒られてるのも 母の愛」
「母の愛 いつになったら 届くかな」

優秀賞 三島中1年 齋藤 翔子 / 母 齋藤 ナオコ
「疲れ果て 布団に入り 幸せに」
「寝顔見て 続く幸せ 願う毎日」



令和4年度 三島町文化祭

11月3日の文化の日に、3年振りとなる三島町文化祭が開催されました。三島小学校体育館では、令和4年度三島町生涯学習表彰式が執り行われ、各部門から17名と5組の方が受賞されました。(P3参照・受賞者一覧)

町民センター内では、町民による生花や写真・書などの作品展示がされ、外では、消防団による消防体験や、地元の特産品物を使用した美味しい食べ物が行われました。お昼には、町民センター内でランチBOX食堂による、カレーライスやけんちゃんそば等も販売され、賑わいを見せていました。午後からは、町民センター大ホールにおいて、芸能発表会が行われ、三島中学校生徒による合唱

や舞踊、カラオケ、昔語り、三島太々神楽などが披露されました。締めには、三遊亭圓遊さんによる独演会が行われ、会場は笑いに満ちていました。公民館では、町の文化を守り、継承していくため、一緒に活動したいというメンバーを募集しています。各種団体の活動にご興味のある方は、ぜひご相談ください。

『植えようみどり めざせカーボンニュートラル』

令和4年度 両沼地方植樹祭

11月8日に工人の館周辺において、令和4年度両沼地方植樹祭が執り行われました。緑化推進委員の皆さんが参加され、三島町のシンボルである桐の玉植え苗を工人の館周辺に植樹されました。両沼町村では、森林や緑を地域全体で守り育て、緑豊かな潤いのある美しい地域づくりを推進していきます。



▲ 桐の玉植え苗を植栽する関係者の皆さん

年末年始も火事にご注意！

秋の火災予防運動

秋の火災予防運動に合わせて、11月11日には高齢者世帯等を対象とした防火診断及び防犯指導、11月13日には防火パレードが実施されました。寒さも身に染みる季節が到来し、暖房器具などが利用され始め、より一層の注意が必要です。ご近所で声を掛け合うなどして火の始末等には十分注意しましょう。



▲ 三島町消防団による防火パレードの様子

希望をつなぐ 7町村たすきリレー

第34回ふくしま駅伝「希望ふくしま」

第34回ふくしま駅伝が11月20日に開催されました。7町村の連合チーム「希望ふくしま」の選手兼監督として、当町の北館亮さん（西方）が4区で出場し、7.3kmを走破しました。今年で10回目の出場となる「希望ふくしま」は昨年より順位を2つ上げ、総合35位（タイム5時間49分44秒）でゴールしました。



▲ 矢吹町役場前からタスキを受取りスタートした北館さん

色とりどりでぬくもり伝わる作品展

三島町デイサービス作品展

11月8日㊤から11月27日㊤まで、福寿草デイサービス利用者の作品を多数集め展示した作品展が、交流センター山びこにおいて開催されました。期間中は町外の方だけでなく、デイサービスの利用者や地域ふれあいサロンの参加者をはじめとする町民が多く来館し、作品を眺めながらさまざまに語り合う場面が見られました。



▲ 三島町デイサービス作品展の様子

ご寄附ありがとうございました

青木成徳さんから町にご寄附

青木成徳さん（福島市）から、JR只見線の再開通を祝い、町にご寄附がありました。10月26日に代理として、ご親戚である青木喜章さんが町長室を訪れ、矢澤町長に手渡しました。青木成徳さんは、旧西方小学校校歌などを作詞された西方地区出身の故青木喜八郎さんの子で、縁のある当町に対して寄附したものです。



▲ ご親戚である青木喜章さんと矢澤町長

防災知識を身に付ける

町赤十字奉仕団 防災セミナー

10月26日に町民センターにおいて、日本赤十字社福島県支部調整監 岸波庄一さんを講師に迎え、三島町赤十字奉仕団による防災セミナーが開催されました。ハイゼックス炊飯袋（耐熱性の炊飯袋）を用いての炊き出し訓練に団員11名が参加し、より日常に近い食事ができるように災害非常食について学びました。このセミナーを通して、自分の家族のことを守る「自助」の力と、地域で協力して苦しいときに乗り越える「共助」の力が重要であることを痛感しました。



▲ ハイゼックス炊飯袋の利用方法を学ぶ町赤十字奉仕団の皆さん

日頃の学習の成果を発表

三島中『桐陽祭』と三島小「三島小まつり」

三島中学校「桐陽祭」は10月29日に、三島小学校「三島小まつり」は11月3日にそれぞれの体育館で開催されました。総合的な学習の発表をはじめ、劇や歌、ダンスなど一生懸命練習してきた成果を保護者の皆さんや町民の皆さんに披露しました。（詳しくは、中学校と小学校より配布された広報誌をご覧ください。）



▲ 三島小3・4年生による発表の様子



▲ 三島中3年生による発表の様子



▲ 『桐陽祭』を無事終えた三島中生徒の皆さん



▲ 全校合唱を披露する三島小児童の皆さん

秋晴れの中、みんなで脱穀作業（10月30日）

小島 純（宮下）

みやした蕎麦と豆腐の会は、宮下活性化センター広場にて、蕎麦の花でいっぱいの景観づくり応援団と住民の方々の協力を得ながら、蕎麦の脱穀作業を行いました。

この日は、町の移住体験ツアーに参加していた4名の皆さんの参加もあり、住民と合わせて22名の方々が参加しました。移住体験ツアー参加者の皆さんからは、「初めての体験で楽しく作業が出来ました」と声が聞かれました。

作業後は、宮下活性化センターにて、手打ち蕎麦が振舞われ、皆さんお代わりをしながら、堪能していました。



「大山桜」で美しい景観づくり（10月30日・11月2日）

佐久間 絹江（滝原）

滝原地区は、駒形神社境内や多目的広場、地蔵尊周辺にソメイヨシノ桜が植えられており、春には、ピンクの花を咲かせ、住民の憩いの場となっていました。その桜も、昭和30年代に植樹されたもので、長年、様々な自然災害にも耐え、頑張ってきましたが、倒木や立枯れ等により手当の不可能な状態に陥り、今回、町の地区支援事業補助金を活用し、町のシンボルツリーである「大山桜」を植樹しました。

10月30日には、重機で植栽場所を決め、11月2日に職人さんのご指導のもと、地区役員やボランティアの方々が植樹されました。美しい景観づくりはもちろんのこと、地区住民の集いの場となることを期待し、来春の開花で待ち遠しい出来事でした。



早戸地区の伝統行事「虫供養」（11月9日）

橋本 光五郎（早戸）

早戸地区の伝統行事である「虫供養」が、今年は11月9日に実施されました。本来は11月10日が祭り日ですが、地区の方々のご理解により、参加して下さる小学校の行事予定に合わせて1日繰り上げて実施したものです。

今年は地区の方々の参加も多く、小学校3年生・4年生の14名の生徒さんも参加して下さったので、昨年よりも賑やかなものとなりました。しかし、今年も新型コロナウイルス感染症対策のためその場での飲食は行わず、お供物の団子とお菓子、飲み物をそれぞれに配布して持ち帰ってもらいました。団子やお菓子を食べながら団欒する元のような開催には、残念ながらもなかなかありません。



冬の準備「冬囲いと清掃作業」（11月6日）

佐々木 邦雄（松原）

朝7時より、松原春日神社境内の冬囲いと観音様及び、周辺町道の清掃作業が、地区恒例の人足作業27名の出席により、手際よく実施されました。作業前には、各自神社にコロナウィルスの終息・来年への健康と明るい年になるようお願いを込めました。

作業は約1時間で終了し、これからの約5ヶ月間の厳しい奥会津の冬を迎える準備が出来ました。来年の4月末頃には、暖かい日差しの中での撤去作業など出来る事を心待ちにしながら解散となりました。参加された皆様、大変ご苦労様でした。

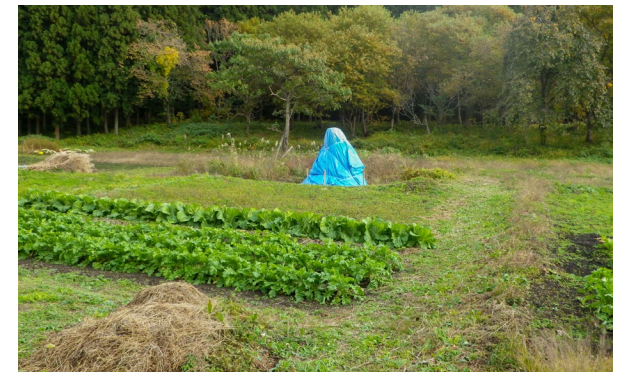


カヤ運び【サイの神用】（10月2日・30日）

佐久間 絹江（滝原）

水田のない滝原地区では、サイの神立てには昔から稲ワラではなくカヤが用いられてきました。秋の刈り取りは、とても重要な作業です。

10月2日に、地区の方々によってカヤ刈りが行われ、その場所で乾燥されたカヤは、10月30日に消防団員の方々によって、サイの神会場へと運ばれました。年明けサイの神の日まで、ブルーシートに覆われ、雨風や雪に耐え、出番を待ちます。



大林管理棟を豪雪から守る冬囲い（10月29日）

本名 与四郎（西方）

早朝より放射冷却のために気温が一段と下がり、肌寒い中で大林公園管理棟の冬囲いとかたくり・さくらまつりに使用された看板や鳴ヶ城跡の案内板などの撤去作業が行われ、地区委員の皆さんでスムーズに行われました。

落とし板が重ねてあった隙間に、越冬をしようとしていた、ヤマカガシの子どもが横たわっており、委員をビックリさせる場面も見られました。大林管理棟を守るための冬囲い板の劣化も進み、今後の大林管理棟の利活用次第では、落とし板ではなく、地区住宅に見られる簡易的な冬囲いを設置することにより、豪雪に耐えられるよう新たに仕付けることが望まれるようです。

二十四節気の一つである「霜降」も過ぎて、朝晩の冷え込みがさらに増し、西方地区の山里でも、いつ、霜が降りをはじめもおかしくない時節となりました。まもなく雪に閉ざされる奥会津の冬に備えた恒例の作業となりました。

「管理棟 青年団の 在りし時 コンサートあり 淡き恋あり」



今昔おやつ料理を楽しむ！（11月18日）

本名 与四郎（西方）

森の校舎カタクリ食堂において、第2回目となる「お楽しみ会」が開催されました。集落支援員の高橋慎介さんが、企画、運営の中心となって、西方地区の皆さんに「懐かしいおやつを作ってお茶しませんか？」と呼びかけ、開催にいたりました。

懐かしいおやつ料理を作るにあたり、小平良子さんと小松ユミ子さんが中心となって活動しました。総勢8名の地区住民が集まり、和やかな雰囲気の中で、三つのメニューに挑戦しました。一つ目の「しんごろう」作りでは、自分の子どもや家族に作ってあげた経験のあるベテランの女性達が多かったため、手際よく炊きたてご飯をすりこぎ棒で軽くつぶしながら、簡単に作り上げました。二つ目の「サーターアンダギー」は、NHKの朝ドラ『ちむどん』で放映された、沖縄のお菓子を。三つ目は「そばがき」を作りました。

これからも昔懐かしいおやつ作りを楽しむ企画を通して、たくさんの地区住民が参加し、絆を深める機会を設けてもらいたいと思いました。

「カタクリに 気楽に集い 顔合わせ 昔のおやつ 今でもうまい」



奥会津にも冬到来！ 冬期間に 注意すべきこと

大雪、暴風雪等が予想される場合…

①不要不急の外出は避け、
万が一に備えましょう！



②自動車の運転には十分気をつけましょう！



路面凍結によるスリップ事故

積雪による立ち往生



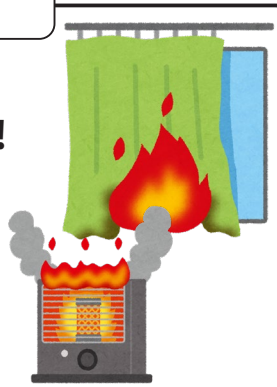
除雪作業中の事故防止

①屋根の雪下ろしや周辺の除雪をする
場合は、ご家族・ご近所に声掛けを！



火の用心！

①火の後始末を
忘れずに！



美女峠の道普請行われる（11月6日～9日）

菅家 寿一（間方）

只見川沿いが話題になっていますが、鉄道やR252が整備される前は、銀山街道が主要道路で、美女峠を通る間方と野尻は、仕事や生活の交流が盛んでした。

県では、この銀山街道を「歩く県道」として長年に渡り整備しています。主催の建設事務所の職員、受注者の若松測量の職員、近隣町村の職員、ボランティアの銀山街道を活用して地域を元気にする会の会員等が参加して、未完成だった箇所や餅が沢の橋の道普請が4日間に渡り行われました。これにより、ヌカルミや危険な箇所が解消されつつあります。

大変な作業でしたが、参加者の皆さんは、大粒の汗をかきながら、泥まみれになって作業に取り組んでいました。整備が進んできたことから、今後は、この峠道の活用にも力を入れたいと思っています。

間方側の峠道は、緩やかな勾配で道幅が広いことから、並んでおしゃべりしながら歩けることが魅力です。落ち葉がビッチリ敷き詰められた峠道を歩くのもいいものです。みなさん、歴史と森林が素晴らしい美女峠に、是非お出で下さい。

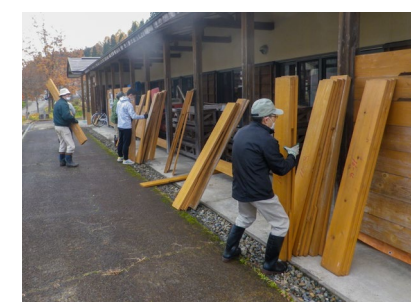


冬に向かって皆で作業（11月19日）

小島 純（宮下）

宮下地区では、地区住民の協力参加を得て、冬に向かって、活性化センターの冬囲い作業と周辺、公園、水路の清掃・植木の剪定作業などを行いました。

この日は、冬囲いの班と、来年1月に行われる「サイの神」のために、杉の葉集めの班に別れ、それぞれ作業を行いました。地域住民の方より、提供された杉の木を切り倒し、杉葉を集めて軽トラックで数回運び、三島神社境内の一角に、保管する作業を行いました。



地区のオアシス、ふるさとセンターの冬囲い（11月13日）

本名 与四郎（西方）

早朝に西隆寺の冬囲いと薪割りを護持会の会員の皆さんで行われた後、西方地区住民のオアシスとなっているふるさとセンターの冬囲い作業が行われました。当日は、冷え込んだ朝方でしたが、幸いにも雨にあらず曇り空の中、地区委員の方々が協力し合いながら作業に取りかかりました。

例年行われている組み立て作業とはいえ、パイプ管の接合がうまくかみ合わなかったり、バランスが不均衡だったりする場面もありましたが、手慣れている委員の方が多数おり、ケガ、事故なくスムーズに無事終了することができました。センター近くに住んでいる、山内嘉也さんが少ない人数で作業を行っているのを見かねて、手伝いに参加していただき、時間短縮にも繋がった様子でした。

「センターは なくてはならぬ 憩いの場」



冬の入浴中の事故に要注意！

vol.74

健康で元気な毎日！

町民課保健福祉係 ☎48-5565

入浴中に意識を失い、溺れてしまうという不慮の事故が増えています。特に65歳以上の高齢者の死亡事故が多く、毎年11月から4月にかけて多く発生しています。厚生労働省人口動態統計（令和3年）によると、高齢者の浴槽内での不慮の溺死及び溺水の死亡者数は4,750人で、交通事故死亡者数2,150人のおおよそ2倍です。

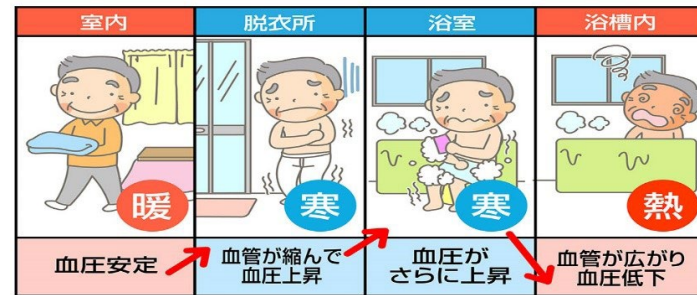
入浴時の事故の主な原因は、急な温度差による血圧の急激な変化です。急激に血圧が変化すると、一時的に脳内に血液が回らない貧血の状態になり意識障害を起こすことがあります。

～入浴中の事故を防ぐために～

- ①入浴前に脱衣所や浴室を暖めておき、急な温度差をなくしましょう。
- ②湯温は41度以下、お湯につかる時間は10分までを目安にしましょう。
※高い湯温や長湯は、体温が38度近くに達し、意識障害を起こす危険が高まります。
- ③浴槽への出入りはゆっくりと行い、脳の血流不足を防ぎましょう。
- ④血圧低下を防ぐため、食後や飲酒後、服薬後すぐの入浴は避けましょう。



同居の家族がいる場合は、お風呂に入る前に家族にひと声かける、家族は入浴中の高齢者の動向に注意するなど、協力して事故を防ぎましょう！
何かあったときの早期発見にもつながります。



図書のご案内

町民センターゆめぼけっと

- 利用時間
月～金 午前9時～午後9時
土・日・祝 午前9時～午後5時
- お休み
年末年始

☎ 公民館 ☎ (48) 5599

●今月のおすすめ



新版・一流の頭脳 運動脳

著：アンデシュ・ハンセン

「ストレスを効率よく解消するには？」
「底なしの記憶力を手に入れる」「学力を高める本当のやり方とは？」など、ありとあらゆるパフォーマンスを確実に高める方法が余すことなく明かされています。

●図書の紹介



財布は踊る

著：原田ひ香



アナベル・リイ

著：小池真理子



パンどろぼう おにぎりぼうやの たびだち

著：柴田ケイコ

地域おこし協力隊 活動誌

令和5年度に向けて

西田 星弥

本格的に冬も始まり、雪国の厳しい冬の気候を痛感している地域おこし協力隊の西田です。

12月は師走ということもあり、年末年始に向けて様々な準備が控えていると思います。

そんな私は来年の1月に行われるサイノカミを楽しみにしており、三島町の関係人口増加のための施策である三島町との交流体験事業への参加者と共に数か所の地区を回りたいと考えています。

また、私の出向先である桐の里産業では収穫物のピークを終え、残りの冬の収穫物である雪下キャベツや来年度に向けての準備で農業は奔走しています。

私のミッションは販売に関する方面です。畑に直接入ることは基本ありませんが、「売る」以前に「作る」ことの難しさも身に染みているところです。来年も地域おこし協力隊として、継続した行



▲ 交流体験事業の様子
(桐植栽体験、農産物販売体験など)

動が必要となります。本年度以上に令和5年度は関係人口、交流人口の増加を目標として地域おこし協力隊員のみではなく、役場全体が主体となって「一刻も早く」「積極的な行動」を起こさねばならない段階にきています。各業態の皆様や住民の方々にもご協力をお願いする機会等ございましたら是非ご助力いただければ幸いです。

想定通りにはいかず3歩進んで2歩下がることの繰り返しにはなると思いますが、着実に歩みを進められるよう精進していきたいと思っています。

盛況です！工芸館木工室

10月29日-ゴム鉄砲づくり-

町民アカデミー講座にてゴム鉄砲の制作体験を行いました。今回は、緑色が珍しい朴の木を主材としたゴム鉄砲を用意しました。低学年の子どもたちも楽しめるように、板の角をとる面取りを中心に行っています。その後は的当て大会で盛り上がりました。またやりましょう！



10月29日-スプーンづくり-

移住体験ツアーにて、参加者のみなさんにスプーンづくりを体験していただきました。三島町に来られる方はものづくりに興味がある方も多く、楽しく制作されていました。私も一本つくりたいです。



11月9日-立志式額づくり-

立志式額作成のため、三島中学校一年生の皆さんが来館されました。先の週で額のフレームの組み立てを行っており、当日はこれをバーナーで焼き、砥の粉を塗って時代仕上げを施しています。みなさんの立志の言葉はなんですか？



気になる内容のものはありましたか？催しに限らず、制作出来るものもありますので、ぜひ、工芸館までご相談ください。

☎ 三島町生活工芸館 ☎ (48) 5502

工芸館だより 19

ものづくりの伝承



～空き家あるある！～
空き家に関する思い込みの
実際について、お伝えして
いきます。

相続放棄の現実

相続放棄とは、不動産や預貯金などのプラスの財産よりも借金などのマイナスの財産が多い場合などに、被相続人（亡くなった方）が残した財産の全てを受けとらないとするものです。法定相続人全員が相続放棄すると、法的に「相続人不存在」という状態になりますが、相続放棄した相続人にも遺産の「管理義務」が発生します。したがって、万が一空き家をめぐって周辺の住民とトラブルが生じたり、空き家が近隣住民や通行人に損害を与えて損害賠償請求された場合は、その責任を負わなければならない可能性が出てきます。

相続人が全員相続放棄した場合は、その財産は国庫に帰属する（＝国のものになる）のではないかとお考えの方もいるかもしれませんが、**一定の手続きを経て相続財産管理人を選任しなければ、相続財産が国庫に帰属することはありません。**「相続の放棄をした者は、その放棄によって相続人となった者が相続財産の管理を始めることができるまで、自己の財産におけるのと同一の注意をもって、その財産の管理を継続しなければならない（民法940条）」と定められています。詳しくは、HP等でご確認ください。

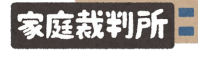
相続財産管理人の選任



相続放棄者

申請費 +

予納金 20～100万円
（相続財産管理人が業務を進める際に必要となるお金）



家庭裁判所

選任



相続財産管理人
（弁護士や司法書士のことが多い）

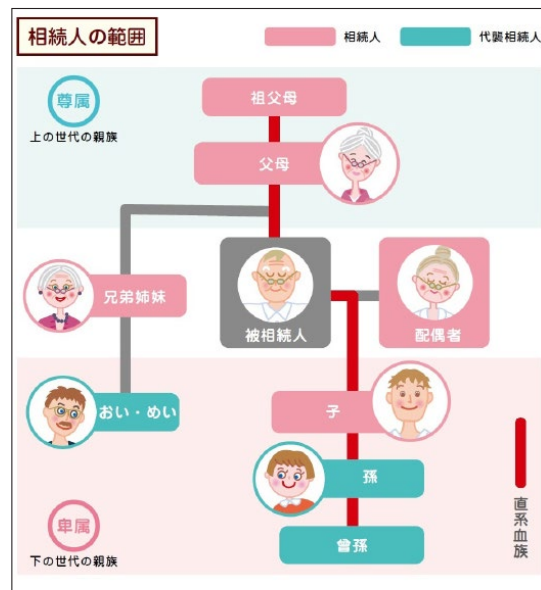
- ・財産を整理、売却。
- ・一般的には、国が不動産を受け取ることはないため、換金して金銭を国が受取。

相続放棄をする場合は

相続放棄をする場合は、**相続開始があったことを知ってから3か月以内に家庭裁判所に申請する必要があります。**先順位の法定相続人が相続放棄すると、相続権は後の順位の法定相続人へと移っていくため、ご自身が相続放棄をすると、**親族の他の方々に迷惑がかかる可能性が出てきます。**

相続放棄を選択する場合は、制度をよく理解し、ご家族や弁護士、司法書士等専門家に相談しながら、早めに対応していく必要があります。

◆ 空き家に関して、お気軽にお問い合わせください ◆
地域政策課 地域政策係 ☎（48）5533



裁判所 HP

移住体験ツアー2022秋

第3回目となる移住体験ツアーを10月28日（金）～31日（日）の2泊3日で実施し、リピーターの方含む4名の方にご参加いただきました。今回も地区や先輩移住者との関わりを通して、移住を具体的に考えていただく機会になったのではないかと感じています。冬が近づき、参加者の皆さんが気になるのは雪のこと。ぜひ、次回も参加し、冬の暮らしを実際に見ていただきたいです。



写真2



写真3



写真4



写真1

1日目

- ・移住者訪問、カスミソウ摘みとり体験（写真1）
- ・森のしごと舎訪問（写真2）

2日目

- ・空き家と空き家改修事例見学
- ・名入ざる菊園訪問（写真3）
- ・生活工芸館にて手彫りのスプーン作り

3日目

- ・宮下地区の方々と蕎麦の脱穀体験（写真4）

【参加者の方の声】

- ・皆さんとても親切で、いい経験ができ、さらに三島町を好きになりました。
- ・移住した方のリアルな声は移住を考える上での材料となります。
- ・町の人との蕎麦脱穀に参加でき楽しかったです。
- ・移住した方のお話を聞いたり、お家を訪問できたのは、大変参考になりました。
- ・ものづくりは楽しく参加でき、作ってみたいものがいっぱい、工芸館に来ると意欲がわきます。

◆ 新規登録物件情報 ◆

三島町空き家・空き地バンクに新規物件が登録されました。詳しくは、QRコードからご確認ください。

空き家・空き地情報は随時更新します。掲載されていない物件についてもご紹介ができることもあります。空き家の取得や賃貸をお考えの方、お気軽に左記までお問い合わせください。

【宮下】0034 賃貸戸建

- ・木造2階建て
- ・床面積 137.15㎡
- ・築40年ほどでコンパクト
- ・トイレの配管工事が必要
- ・大規模な改修が必要

【宮下】2002 売却土地

- ・宅地
- ・431.44㎡
- ・町内中心地から近く立地良好



三島町空き家・空き地バンク

町職員の給与と定員管理の状況をお知らせします

町職員の給与は、民間給与の調査に基づく人事院勧告を基本に、県や他の公共団体との均衡などを考慮し、条例で定められています。令和4年4月1日現在の地方公務員給与実態調査および地方公共団体定員管理調査を基に、町職員の給与と定員管理の状況を公表します。

問 総務課 財政係 ☎（48）5511

◆部門別職員数の状況（令和4年4月1日現在）

部 門		職員数	前年度からの増減
一 般 行 政 部 門	議 会	1	± 0
	総 務	17	+ 3
	税 務	2	± 0
	民 生	7	- 1
	衛 生	4	± 0
	農 林 水 産	3	± 0
	商 工	2	- 1
	土 木	3	± 0
	小 計	39	+ 1
特 別 行 政 部 門	教 育	5	- 2
公 営 企 業 等 会 計 部 門	水 道	1	± 0
	国 保	1	± 0
	そ の 他	1	± 0
	小 計	3	± 0
合 計		47	- 1

③職員数は一般職に属する人数であり、町長、副町長、教育長、会計年度任用職員は除いています。

◆人件費の状況（令和3年度普通会計決算）

住民基本台帳人口（令和4年4月1日現在）1,455人

歳出額（A）	実質収支	人件費（B）	人件費率 (B / A)
25 億 8,468 万円	1 億 5,761 万円	4 億 5,864 万円	17.7%

③人件費には非常勤の特別職に支給する給料や報酬も含まれます。

◆職員給与費の状況（令和3年度普通会計決算）

職員数（A）	給 料	職員手当	期末・勤勉手当	計（B）	1人当たりの 給与費（B / A）
45	1 億 5,728 万円	2,698 万円	5,876 万円	2 億 4,302 万円	540 万円

③職員数は令和3年4月1日現在。職員手当には退職手当を含まない。

◆職員の平均年齢、平均給料・給与の月額

区 分	平均年齢	平均給料月額	平均給与月額
一般行政職	41.4 歳	30 万 7,486 円	35 万 9,979 円

③令和4年4月1日現在の給与=給料+諸手当

◆令和4年4月1日現在の初任給および経験年数別・学歴別平均給料月額（一般行政職）

学 歴	初任給	経 験 年 数			
		10 年	20 年	25 年	30 年
大学卒	18 万 6,500 円	※	34 万 3,500 円	※	※
高校卒	15 万 3,900 円	21 万 8,800 円	※	※	※

③経験年数とは卒業後直ちに採用され引き続き勤務している場合の年数をいいます。（※該当者なし）

◆令和4年4月1日現在の特別職の報酬等

区 分	役 職	月 額	期末手当（令和3年度支給割合）		
			6 月期	12 月期	計
給 料	町 長	69 万 4,000 円	1.4 月分	1.5 月分	2.9 月分
	副町長	55 万 9,000 円			
	教育長	52 万 7,000 円			
報 酬	議 長	22 万 5,000 円			
	副議長	18 万 4,000 円			
	議 員	16 万 6,000 円			

◆職員手当の状況

（令和3年度支給割合）

	6 月期	12 月期	計
期末手当	1.250 月分	1.100 月分	2.35 月分
勤勉手当	0.950 月分	0.950 月分	1.90 月分

（令和3年度決算）

その他の手当	扶養手当	住居手当	通勤手当	時間外手当	寒冷地手当
1人当たりの 平均支給年額	25 万 6,800 円	24 万 9,600 円	13 万 3,200 円	34 万 3,200 円	6 万 4,700 円

（令和4年4月1日現在）

	勤続年数	自己都合	勤奨・定年
退職手当	勤続 20 年	19.6695 月分	24.5868 月分
	勤続 25 年	28.0395 月分	33.2707 月分
	勤続 35 年	39.7575 月分	47.709 月分
	最高限度額	47.709 月分	47.709 月分

町史編さん室だより

第83回

戦時中、宮下村の供出と増産

ご家庭に古い文書や写真などがございましたら、
交流センター山びこへご連絡ください。

☎（52）2165

国の食糧管理制度の一環として、太平洋戦争中の昭和十七年（一九四二）からはじまった供出制度は、農家から主要な農作物を一定量、政府が買い上げるものです。

町には、例えば馬鈴薯（じゃがいも）に関していえば、供出に關しての指示と協議を行う為、十八年八月十四日に宮下国民学校に集まるように指示した宮下村長からの通知が遺されています。村役場の日誌を読むと、同月二十三日に大谷・浅岐において馬鈴薯検査が行われ、翌日に庁内で馬鈴薯供出に關する会議、二十五日には大谷・浅岐の馬鈴薯供出協議会が役場で開催されています。

馬鈴薯のほか、町では様々なものが供出されており、割当に關する協議や、物資の準備、その搬送が頻繁に行われていました。供出する物資として日誌に散見されるのは、米や馬鈴薯といった食糧となるものだけでなく、木材や薪炭、アカソといった山村ならで

はのものも確認できます。

アカソに關しては、十六年六月二十八日に役場において、“野生芋麻赤芋採集運動方策協議会”が開催されており、野生の芋麻（アオソ、カラムシ）やアカソを活用する動きがあったことがうかがえます。“保証責任宮下信用販売購買利用組合”の十六年度事業報告書には「アカソ乾茎」一七〇〇㍻を四七七円七四錢で販売したとの記録があり、二十年一月十日には役場吏員が農業会のアカソ積み込み作業に協力したという記事もあります。アカソは戦時中、村内にとどまらず衣料不足解消の繊維材料として全国各地で集められた記録があります。終戦間近の二十年七月二十四日、麻種子・シナ皮の供出に關連し軍の少尉と上等兵が来村していますが、実際にこれらを生供出していたのかを示す記録は見つかりません。

供出に關連し、時には“〇〇増送週間”といった期間が設けられ、監督者が督励に訪れたりしていま

す。十八年には“供木運動”という名称も役場日誌にみられます。

三月十七日にその運動の件で村長が両沼地方事務所に出張、二十一日には役場でその協議会、五月十八日には宮下村に駐在していた林産物検査員と役場吏員がそれぞれ桧原・川井・大登・浅岐・大谷・桑原で供木検査を行っています。

木材の供出や搬出に關してはその後の記事にも散見され、例えば二十年二月二十二日には木材増送週間として地方木材株式会社副社長その他多数が督励に来村、翌日は川口や横田といった奥地に向かうとして、宮下で一泊しています。

林産物検査員に關しては、二十年一月十一日に役場の一部を林産物検査事務所として貸与、二月十一日には“宮下村駐在林産物検査所”新築開庁式の記事があります。

また供出だけでなく増産も推進されていました。日誌では十四年七月十六日の「木炭増産二関スル協議会開催」という記述以降、木炭増産が西川村外二ヶ村組

合村（後の宮下村）に課せられた

ものであったのか、ほとんどの年で木炭をいかに増産し滞荷なく輸送するかの協議がなされ、時には軍用保護馬や青年学校の生徒も動員（奉仕）させて搬出しています。

木炭を増産するには炭焼夫の労働が不可欠であり、十七年十一月二十日の記事には会津文化協会が“木炭増産戦士”の慰安と激励のため、間方で映画を上映しており、十九年十一月八日には大日本婦人会の県支部、坂下支部長外三名が来村、間方字袖山の現場視察、炭焼夫慰問を行っています。木炭だけでなく十九年一月五日には薫工品増産推進隊実施運動に關する協議会が役場で開催されています。

供出物資はじめ建築資材等の輸送も重要な問題であり、十九年七月五日には牧原源一郎衆議院議員が来村、輸送関係状況の把握に宮下停車場貨物発着所を視察しています。

（三島町史編さん室）

ウォームビズで快適に省エネ



ふれっく

三島町のみなさまこんにちは。環境研だよりでは、ひとりひとりができる脱炭素行動として「ゼロカーボンアクション30」をご紹介します。今回は「エネルギーを節約・転換しよう！」のアクションである「クールビズ・ウォームビズ」に注目してみました。

12月に入って、本格的な冬が到来しはじめ、みなさんもお家や学校、職場等で暖房器具を使い始める頃ではないでしょうか。環境省では平成17年度から冬場の温暖化対策として「WARM BIZ」を呼び掛けており、暖房を付ける際に室温の目安を20℃にして快適に過ごすことを推奨しています。夏場に涼しい服装をして、エアコンの温度を高め設定する「COOL BIZ」の方が聞き馴染みがあるかもしれませんが、電力を使った冷暖房を利用する場合の省エネ効果は、夏よりも冬のほうが大きい効果が見込めます。例えば夏場の外気温が35℃のとき、冷房を28℃に設定した場合、その差は10℃ありませんが、冬場に0℃の外気温を20℃まで上げようとする20℃の差が出てしまい、冷房運転よりも多くのエネルギーが必要になり、電気代も上がってしまうことにもなりますよね。

環境省のホームページにあるウォームビズの特集ページを見てみると (<https://ondankataisaku.env.go.jp/coolchoice/warmbiz/about/>)、「暖房の設定温度をできるだけ低くし、その他の衣・食・住のライフスタイルを少し見直すことで無駄になってしまうエネルギーを節約できる」とあります。

以前の環境研だよりでも「手軽にできる断熱DIY」をご紹介しましたが、窓に断熱シートを貼る、厚手のカーテンを取り付けるなど、暖かい空気が外に逃げないように住宅に工夫を施すことはとても効果的で、他にも暖かい機能性素材の肌着やジャケットを部屋でも着用したり、ひざ掛けやストールを活用したりといった服装の工夫、食べもので言えば身体と室内を温めるこ

とができる鍋料理を食べて暖房の緩和をするなど、普段の生活の中で少しスタイルを工夫すればウォームビズにつながる行動がたくさんあります。

さらに、家族やご近所の人々が同じ場所に集まることでエネルギー消費を減らし、コミュニケーションを深めることができる「ウォームシェア」という考え方もあります。



あたたかくて省エネの動画を見る！

※可愛いキャラクターによる「ウォームシェア」を紹介する動画も (<https://www.youtube.com/watch?v=NzactFE09Vc>)

家族が別々の部屋で過ごすよりも、リビング等にみんなで集まればその分エネルギー消費が少なくなりますし、また家庭での暖房を止めて公共施設等にお出かけすることもウォームシェアとなって、エネルギー消費を減らすことができます。コロナ禍の影響も見ながらになってしまふところもありますが、スポーツをしたり、温泉に入りに行ったり、お店でご飯を食べたり、気軽に楽しみながら省エネができるライフスタイルとして、みなさまも取り入れてみてはいかがでしょうか。

〈筆者〉常盤 達彦（ときわ たつひこ）

国環研でも冬場の節電を行っており空調を20℃設定にして各デスクにカーボンヒーター等の暖房器具を設置しています。とはいえ風邪を引いてしまふは元も子もないので、みなさんも無理のない範囲でウォームビズを試してみてくださいね。

● 国立環境研究所福島地域協働研究拠点
地域環境創生研究室 ☎ 0247 (61) 6572

地域循環コラム 第6回 ～ 実践！「ゼロカーボンアクション30」～

先月3日の三島町文化祭では、「三島町 SDGs パネル展」と題して、三島町の地域循環やゼロカーボン社会への取り組みにおけるパネル展示をさせていただきました。その中で、町民の皆さまへのお願いとして、「ゼロカーボンアクション30」実践について取り上げましたが、当コラムでも改めてお話ししたいと思います。

なお、お隣（国立環境研究所さん寄稿）のページにも当アクションに関する具体的な内容や効果等を毎月掲載されていますので、こちらも是非ご覧ください。

◆「ゼロカーボンアクション30」について

環境省で推奨するひとりひとりができる取り組みが「ゼロカーボンアクション30」です。

右のサイトにて、それぞれのアクション詳細が確認できますので、是非アクセスしてください。



<https://ondankataisaku.env.go.jp/coolchoice/zc-action30/>

◆「ゼロカーボンアクション30のジャンルからやってみたいランキング」第1位は！？

ゼロカーボンアクション30のジャンルから やってみたいランキングベスト10！		
1位	食事を食べ残さない	55.4%
2位	節水	55.3%
3位	節電	54.8%
4位	ごみの分別処理	44.0%
5位	今持っている服を長く大切に着る	41.6%
⋮		

ゼロカーボンアクション30に関する意識調査によると、30のアクションで最も実施意欲が高かった行動は、「食事を食べ残さない」でした。筆者も最近は意識して食べ残さないように食事を作ったり、外食する時も注文には気を付けています。外食時にどうしても食べ残しがある場合は、可能な限りパックに詰めたりするなど、出来る限りのフードロスを行っています。食費も抑えられますし、取っ掛かりとしては良い取り組みだと思います。

その他の上位5位までは、誰でも直ぐに実践でき、環境だけでなく家計にも優しいアクションとなりますので、意識的に取り組んでいきましょう！！

◆その他にも重要なアクションがたくさん！！

先述の5つ以外のアクションも重要です。この他に筆者が意識しているアクションの一つが「暮らしに木を取り入れる」です。アクション30のページでは、住宅への木材使用を中心に書かれていますが、いきなり住宅の話となるとハードルが一気に高くなります。そのため、筆者は、住宅以外の生活用品など身近な物から暮らしに木を取り入れていこうと考えています。ちなみに最近だと、長年愛用していた100円均一のペンケース（右の写真）を筆者自作の木製ペンケースに切り替えました。

このような形で、皆さまも自身の暮らしに合った無理ないアクションからまずは取り入れてみてはいかがでしょうか。



【 地域おこし協力隊 やまもとたかはる 山本敬晴 】

町からお知らせ

ご寄附ありがとうございました（10月分）

ふるさと納税

宮田 美代子 様（会津若松市）
小松 義弘 様（埼玉県）
五十嵐 誠幸 様（埼玉県）
小久保 一夫 様（千葉県）
佐藤 英美 様（柳津町）
鈴木 俊哉 様（神奈川県）
他 23 件

計 952,000 円

12月分納税のご案内

【納期限 12月26日（月）】

- ▼ 固定資産税（第3期）
- ▼ 国民健康保険税（第5期）
- ▼ 介護保険料（普通徴収）（第5期）
- ▼ 後期高齢者保険料（普通徴収）（第5期）

忘れずに納付ください。

町民課 町民係 ☎（48）5555

お悔み申し上げます

菅 家 英 子 様（87才・宮下）
坂 内 ヨ シ 様（96才・西方）
五十嵐 百合子 様（95才・大谷）
阿 部 幸 子 様（91才・桧原）

町の人口と世帯（11月1日現在）

人口	1,418	増減数	-2	出生	0
男	713		-2	死亡	3
女	705		0	転入	2
世帯	698		-2	転出	1

※住民基本台帳による数値です。増減数は前月との比較、出生・死亡・転入・転出は前月1カ月間に届出のあった人数です。

社会福祉協議会より

大石田友遊サロン

12月5日（月）
午前10時から
大石田集会所

サロンなごみ

12月7日（水）
午前10時から
西方ふるさとセンター

桧原はつつクラブ

12月9日（金）
午前10時から
桧原集会所

ひまわりサロン

12月12日（月）
午前10時から
町民センター

高清水・小山いきいきサロン

12月13日（火）
午前10時から
高清水集会所

川井友愛サロン

12月16日（金）
午前10時から
川井集会所

サロンないり

12月19日（月）
午前10時から
名入集会所

大登サロン

12月20日（火）
午前11時30分から
大登生活改善センター

滝谷和楽塾

12月22日（木）
午前10時から
滝谷集会所

間方いきいきクラブ

12月23日（金）
午前10時から
間方集会所

ほがらかサロン

12月25日（日）
午前10時から
森の校舎カタクリ

※新型コロナウイルスの感染状況により中止する場合もございますので、ご了承ください。

◆ 心配ごと相談 ◆

12月9日（金） 福寿草
午前9時30分から午前11時30分まで

町社会福祉協議会へのご寄附 （ご遺志によるもの）

坂内 洋二 様（西方）
石岡 健二 様（大登）
五十嵐 三美 様（大谷）

（一般のご寄附）

会津ヤクルト販売（株）

社会福祉協議会 ☎（52）3344

宮下病院からのお知らせ

理学療法士から「筋肉のお話し」第2弾

宮下病院 リハビリ室

筋肉肥大には“ややきつい”と感じる「過負荷」のトレーニングが必要です。しかし、数日後「筋肉痛」を感じることもあります。さて、皆さんは痛みを耐えてトレーニングを続けたほうが良いと思いますか？答えは「NO」です。「筋肉痛」を感じるのは損傷した筋肉繊維に炎症が起こっているのです。その後、修復と筋肉繊維の肥大が起こります。筋肉痛を感じた時期は損傷部の修復を妨げないように安静か軽いストレッチ程度にしましょう。毎日トレーニングしないと気がすまない方は、運動部位を上肢・体幹・下肢に分けてローテーションしてみましょう。

愛ばんしょ外来からのお知らせ

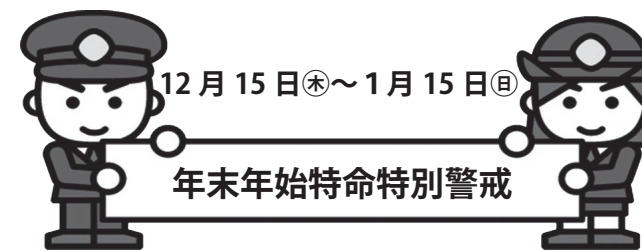
三島町ケーブルテレビ 三島通信で健康教室を放送中です。

12月のテーマは「薬をのみやすくする方法」です。ぜひご覧ください。

福島県立宮下病院 ☎（52）2321



消防署からのお知らせ



12月15日（木）～1月15日（日）

年末年始は、あわただしさから火の取り扱いがおろそかになりがちです。お出かけ前やお休み前には火の元に十分注意し火災のない年末年始を過ごしましょう。

～ 住宅防火のポイント ～

1. タバコの不始末
2. 暖房器具の正しい取扱い
3. 調理中はコンロから離れない
4. 電気コードのタコ足配線はしない
5. 家のまわりに可燃物を置かない

会津坂下消防署 三島出張所
☎（52）3032 / FAX（52）3033

会津坂下警察署からのお知らせ

フィッシング詐欺に気をつけましょう

『フィッシング詐欺』とは、実際の企業やインターネットを装ってメールを発信し、偽のホームページにアクセスさせてクレジットカード番号やアカウント情報（ユーザーID、パスワード等）を盗み出す行為のことです。

最近ではメールの送信者名を偽るのはもちろん、文面のURLから接続される偽のwebサイトの見た目や内容も本物とほとんど区別がつかないよう巧妙に作られています。

フィッシング詐欺に騙されてしまうと、クレジットカード決済やwebマネーを不正利用され、身に覚えの無い請求を受ける被害に遭います。

☆ 対策 ☆

- 金融機関のID・パスワードを入力するwebサイトに接続する際には、メールのURLからアクセスするのではなく、自分でブラウザ検索した公式のwebサイトからアクセスすること
- 金融機関や携帯電話の契約会社を名乗るメールの中で、普段とは異なる手続きを要求された場合には、鵜呑みにすることなく、金融機関や契約会社に電話し確認すること

狩猟期間中の事故・事件防止

福島県では、11月15日～翌年2月15日まで（イノシシ及びシカに限り11月15日～翌年3月15日まで）の間を狩猟期間として定めており、鳥獣保護管理法で禁止されている区域を除いた地域で、狩猟免許を取得している方に限り狩猟鳥獣の捕獲等を行うことができます。

猟銃を使用する際の狩猟は一歩間違えると重大事故に繋がることから、銃刀法に定められたルールを守って取り扱しましょう。

☆ 主な違法行為 ☆

- 公道上で、猟銃に実包（弾）を装填したまま携帯する行為
- 公道上にいる獲物を撃ったり、公道を越えて獲物を撃つ行為
- 駐車中の車両内に猟銃を放置し、その場を離れる行為
- 猟銃を運搬・携帯する際に、ケースへの収納やおおいを被せず持ち歩く行為

会津坂下警察署警務係 ☎0242（83）3451

三島町生活工芸アカデミー

～三島町の暮らし、生活工芸を学ぶ1年間～

第6期受講生募集！

募集期間

令和4年12月1日～

令和5年1月9日

「三島町生活工芸アカデミー」は、三島町に暮らしながら、町の生活文化、民俗行事、農林業などの農山村生活実践体験や、生業の一つとしての生活工芸技術を習得する生活工芸実践体験を通して、雪国奥会津の暮らしを体感し、ものづくりをしながら自活できる素養の一端を身に付け、生活工芸や伝統文化の継承、地域の活性化などの担い手を目指す一年間の講座です。

令和5年度開講する第6期受講生を募集いたします。

～ 講座内容 ～

○農作業生活実践体験 ・農作業体験、郷土料理体験、町や地区の行事参加

○生活工芸実践体験

- ・座学…町の歴史、生活工芸運動などの講義
- ・実技…編み組細工（山ブドウ、ヒロロ、マタタビ）、木工、陶芸など



詳しくは生活工芸館 HP へ

<http://www.okuaizu-amikumi.jp/>

問 三島町生活工芸館

TEL 0241 (48) 5502



町長日記

～ ハーメルンの笛吹き男 ～

No.86

福島民報や福島民友の1面の下段の広告欄に、度々「61万部（ベストセラー）」無人島に1冊もっていくなら「歎異抄」～「歎異抄をひらく」高森顕徹著」が掲載されています。

人口減少社会や高齢社会という危機感を煽ることなく、地域コミュニティの時間や、文化的・精神的な満足な水準を高めることが肝要であると考えます。

最近、インドネシアで開催されたG20バリ・サミットの内容を考えると、グローバルという価値観を根本から変える時代でないのかと考えています。

「無人島に」のキャッチコピーが好きで、非常に興味のある本の1冊であり、2年前に購入し、パラパラと読んで、三島にもものづくりの勉強に来ていた方に「歎異抄」をプレゼントしました。

只見川流域の町村は、自然資源や環境資源、医療、教育、介護福祉を大切に育てることが、只見川と共に生活する共生社会を創造することがあると考えます。

三島町でも、多様な価値観と考え方を持った人々が循環する町で在ることが、持続可能な地域になると確信しています。

世界の人口が80億を超したと大きく報道され、水や食料そして資源等の不足の問題が報じられたのは記憶に新しいところであります。

三島町長 矢澤 源成